

4月17日(月)

受け継がれる福音

聖書朗読 詩篇 78：4～8

私はあなたの純粋な信仰を思い起こしています。そのような信仰は、最初あなたの祖母ロイスと、あなたの母ユニケのうちに宿ったものですが、それがあなたのうちにも宿っていることを、私は確信しています。 II テモテ 1：5

パウロは、テモテを息子のように愛し、指導しました。ですから、パウロがテモテについて書いている文章を見ると、テモテを通して福音が宣べ伝えられていくことを、パウロがいかに喜んでいるかが良く伝わってきます。そして、パウロがテモテの信仰について語る中で、次の人々の働きが、ペテロの信仰が形成されていく上で重要だったと記しています。それは、テモテの祖母、そしてテモテの母、です。彼女たちの働きは、親から子へ、そしてさらにその子へと信仰が継承されていくことの、本当に素晴らしい「証し」と言えましょう。

私の祖母は、「主を愛する生き方」とはどのような生き方なのかを、彼女の謙虚かつぶれない信仰を通して、家族や親戚たちに示してくれました。また、主を讃美することの喜びを、私たちに教えてくれました。こうして祖母は、「主を愛する生き方」の良きお手本となってくれました。また、私の祖父も、その子供たちに聖書の話をして神様の素晴らしさを教えていたそうです。私は、母からそのことを何度も聞いています。

私の祖父母や両親も、他の全ての人と同様に不完全な人間ですから、時に間違いを犯すこともあったでしょう。しかし、(私の祖父母がしたように)自分の家族や親戚たちによって福音が(若い世代へと)宣べ伝えられていくという場合もあるのです。ですから私たちも、神様の霊によって心が燃やされて、「家族や親戚たちと福音を分かち合う者」として用いられ得るのです。

讃美歌 502

祈り 天におられる神様、代々信仰が受け継がれていることに感謝します。これからも家族揃って神様に従うことが出来ますように。また、信仰の継承のために、あなたが私たちをお用い下さいますように。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ブルーデンス・ウイリアムス
カリフォルニア州エスコンディード

今日の方

2023年4月17日～4月23日

翻訳 伊藤若菜

編集 相川忠義

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

4月18日(火)

神のみことば

聖書朗読 詩篇 119:105~112

あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。

詩篇 119:105

神様のみことばは、私たちが霊的にどのように歩むべきかを示しています。神様のみことばを学ぶことにより、私たちは、次のことを知ることが出来ます。すなわち、(そもそも) みことばとは何なのか、みことばをどのように受け取ることが出来るのか、そして、みことばが私たちにもたらす祝福、について知ることが出来ます。

(そもそも) 神様のみことばとは、何なのでしょう？ みことばは、神様とその御心(みこころ)を指し示すものと言えましょう。みことばは、神様ご自身について指し示し、神を信じる人々の生き方について教えています。そして、(神に喜ばれる生き方のための) 命令についても書かれています。ですから、みことばは、私たちの人生の土台であり、究極の真理なのです。

では、神様のみことばを、私たちはどのように受け取ることが出来るのでしょうか？ 私たちは、聖書を読むことによって、神様のみことばを受け取っていくことが出来ます。また、神様のみことば、聖句を拠り所とした礼拝説教や、教会などでの聖書の学び、或いは個人的な聖書の学びなどを通して受け取ることも出来ます。

聖書は、「神の靈感」によって書かれたものです。ですから、聖書を学ぶとき、私たちは神様ご自身のことばに耳を傾けることになるのです。そして、聖書を学ぶことにより、私たちは地上の闇を照らす天の光を見るのです。

それでは最後に、神様のみことばは、私たちにどんな祝福を与えてくれるのでしょうか？ まず、みことばは、私たちを守ってくれるという祝福を挙げることが出来ます。つまり、みことば、私たちが罪から遠ざけて、私たちが神の子供としてふさわしい歩みが出来るよう導いてくれます。また、私たちが霊的に成長できるよう、神の知恵を私たちに与え、私たちの信仰を深めてくれます。神のみことばは、私たちを整え、最終的な天の御国という住まいへ、私たちを導いてくれます。

ぜひ、この神のみことばに留まり、神のみことばに聴き続ける歩みを致しましょう。

讃美歌 187

祈り 神様、あなたのみことばを感謝いたします。みことばの光によって導かれ、歩むことが出来ますよう、私たちをお導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ロバート・ガーデンハイヤ
テネシー州ナッシュビル

4月19日(水)

朝を待つ

聖書朗読 詩篇 130篇

私のたましいは、夜回りが夜明けを待つのにまさり、まことに、夜回りが夜明けを待つのにまさって、主を待ちます。
詩篇 130:6

ある時、真冬にキャンプをしたことがありました。真っ暗な空の下、岩のように固い地面の上に寝袋を敷き、横たわったのですが、それは「快適」とはかけ離れた状況でした。気温は予想以上に下がってました。寝袋の中で震えながら、夜が明け、太陽が地平線に顔を出すのを待っていました。人生にも、このように寒くて暗い夜が終わるのを待ち望まなければならない、という場合があります。心に痛みを覚えつつ、その心の痛みが消えていくのを待ち望まなければならない、という場合があります。その「痛み」は、健康上の問題や心配事かもしれません。または、家庭の問題かもしれません。或いは、経済的な問題・心配事かもしれません。私たちそれぞれが持つ「痛み」は、様々だと思います。ですが、それどのような痛みであれ、私たちは暗闇の時間が終わり、御子イエス様の光が私たちに注がれ、試練から脱出する時が来ることを、確信して待ちましょう。

待つことに疲れてしまった時、私たちは、神様のみことばを通して希望を見出すことができます。例えば哀歌は、主を待ち望み主を求める者に主は良くして下さる、と記しています。またミカ書は、私たちの救いの神である主に眼を向け待つことを勧めています。そして詩篇は、神様によって強めて頂き、勇気をもって主を待ち望むように、と教えています。

ですから、もし、今あなたが人生における「待機状態」(神様による助けを待つ試練の時)にあるならば、落胆する必要ははありません。夜は明けます。みことばを通して神様を心から求めましょう。そして、待ちましょう。

神様はあなたの叫びを聴いて下さいます。試練という夜が明ければ、主の愛の温もりが、あなたの疲れた魂を強くしてくれるでしょう。

讃美歌 298

祈り 親愛なる神様、時に待つのは難しく感じる時もあります。忍耐強く待てるようお導き下さい。あなたが共に居て下さることを覚えさせて下さい。
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ジェリル・M・ペーカー
インディアナ州ラポート

4月20日 (木)

神は救いを成し遂げられる

聖書朗読 詩篇 140篇

あなたがたの神、主だけを恐れなければならない。主はすべての敵の手からあなたがたを救い出される。
II 列王記 17:39

詩篇140篇は、重みのある言葉に溢れています。ダビデはこの言葉をただ記しただけではなく、彼自身の心に響かせて確信していたことと思います。この詩篇の中でダビデは、自分に敵対する人々の言葉、計画、自分に対して企てる罠などについて触れていますが、その時のダビデの心境は、どのような心境だったのでしょうか？

ダビデは不安で押しつぶされそうな心境だったのでしょうか？ 敵対する人々の悪巧みを想像して眠れぬ夜を過ごしたのでしょうか？ また、次に何が起こるかかわからない状況で、心細かったのでしょうか？ 恐らく、そのように感じる時もあったことでしょう。

しかし詩篇140篇は、ダビデがきちんと覚えるべきことを覚えていたことを記しています。ダビデは、主である神様を思い起こし、守って下さるよう神様へ呼びかけました。ダビデは心を「主権者である主」に向け、神様の救いを待ち望みました。もしかしたら、ダビデは次のように思った時もあるかもしれません。すなわち、「自分の手で問題を解決し、報復や復讐したほうが手っ取り早い」と。しかし、それは神様に委ねるべきことである、とダビデは理解していました。

ダビデは、神様が貧しい者に正義を下し、困窮している者の訴えを聴いて下さること確信していました。神様がそうして下さるのだから、ダビデはもうそれで十分だったのです（自分で復讐したりしようとは思わなかったのです）。

あなたの場合はいかがでしょうか。あなたに対して敵意を持つような人がいた場合、ぜひ次のことを思い起こしましょう。すなわち、自分でその人に復讐するなどして問題の解決を試みるのではなく、ダビデのように、神様に問題を知って頂き、神様に委ねましょう。私たちの問題や課題を主の足元に差し出すとき、主が解決への道を切り開いて下さいます。そして、主は、あなたをも救い出して下さるのです。

讚美歌 301

祈り 神様、私たちを救って下さい。あなたは、正義を行って下さり、私たちを守って下さることを信じ、感謝いたします。私たちを悪から守り、助けて下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ベン・マレネス
テキサス州アマリロ

4月21日 (金)

良い人生

聖書朗読 箴言 1:1~7

あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は固く信じているのです。ピリピ 1:6

高速道路を運転しながらネブラスカ州へ入ると「ネブラスカ州 良い人生」というキャッチフレーズが書かれた看板を目にします。このキャッチフレーズは、ネブラスカ州には「良い人生」があると言い、ネブラスカ州でそれを見つけて住むことが出来ると言っている訳です。ネブラスカ州の住民の多くは、「良い人生」とは目的のある人生で、「行き当たりばったり」の人生ではないと考えていると思います。48年以上ここに住んでいる私は、そのような人生観に共感を覚えます。

箴言1章1節~7節は、「良い人生」の基盤について教えています。良い人生とは、「知恵と訓戒」を尊ぶ人生と言えましょう。知恵も訓戒も、信仰生活の中で、少しずつ身に付いてくるものだと思います。また、良い人生とは、「正義と公正を行う」ことでもあります。他者に対し、神様に喜ばれない仕方で接しては、良い人生を生きることは出来ません。

また、箴言は「若い者に知識と思慮を得させるため」のものだとあります。ですから、良い人生とは、思慮深い人生だとも言うことが出来ます。

私たちは、神に従う者としての「良い人生」を願い、その良い人生を送るためにどうしたら良いかを知りたいと願います。それについて箴言の知者は、本日の聖書箇所の中で、こうはっきりと書いています。「主を恐れることは知識の初めである」。つまり、良い人生は、なによりもまず、「主を恐れること」（つまり、主を愛して礼拝し、主に全幅の信頼を置くこと）から始まるのです。

讚美歌 321

祈り 神様、イエス様の教えに生きることが出来ますよう、お導き下さい。私たちが迷ってしまう時、私たちをイエス様の教えへ立ち帰ることが出来るよう、助け導いてください。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ロバート・ローレンス
ネブラスカ州ヨーク

4月22日(土)

神様に従う

聖書朗読 エレミヤ 1:4~10、17~19

だから、彼らがあなたと戦っても、あなたには勝てない。わたしがあなたとともにいて、——主の御告げ——あなたを救い出すからだ。 エレミヤ 1:19

神様が私たちに何らかの指示をお与えになる時、その指示は、必ずしも私たちが思い描くもの(私たちの論理に沿うもの)とは限りません。神様のお考えは、私たちの人間的な知恵を超えた優れたものだからです(イザヤ57:15、55:8)。

神様は、エレミヤに大きな任務を与えました。しかし、その時エレミヤは、まだ若く、経験不足で、無名の小さな町に住んでいる者に過ぎませんでした。ですから、神様のみことばを宣べ伝えると言う任務は、エレミヤにとって重すぎる任務であり、困難で、とても無理である、とエレミヤは思ったのです。しかし、それは神様のご計画の内にあつたのです。

神様が、ホセアに語り、ホセアの妻を救い出すようお命じになったことは、私たちの感覚では、理にかなっていないようにも思えます。ホセアの妻は、ホセアに対し重大な罪を犯し、その報いを受けて当然だからです。しかし、ホセアの妻の救出を、神様は望まれたのです。

マリヤは、身ごもることについて、御使いを通して知らされました。しかし、彼女は当時未婚でした。しかも、「生まれる子は、神の子と呼ばれる」と告げられたのです。これは、マリヤにとって理解に苦しむことであり、困惑せざるを得ないことであったことでしょう。告げられた内容は、(マリヤの人間的な考えでは)到底考えられないことだったのです。しかし、マリヤは「私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおりこの身になりますように」(ルカ1:38)と答えました。マリヤに起こった出来事は、神様のご計画の内だったのです。

アナニヤはサウロのもとに行くように言われたとき、サウロに関する良くない評判を聞いたので、恐れおののきながら、仕方なく出掛けて行きました。しかし、この出来事も、神様が望まれ、神のご計画のうちにあつたのです。神様は、サウロのために素晴らしい計画を立てておられたのです。サウロは異邦人に福音を伝えるために神様によって用いられることになっていたのです。そして、確かにその通りになったのです。ですから、私たちも神様に信頼し、お従いして参りましょう。

讃美歌 285

祈り 神様、私たちが間違つた道ではなく、あなたにお従いすることが出来ますようお導き下さい。イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

ラリー・ケイン
テキサス州ハイランドヴィレッジ

4月23日(日)

素晴らしい朝焼け

聖書朗読 エレミヤ 31:1~35

主はこう仰せられる。主は太陽を与えて昼間の光とし、月と星を定めて夜の光とし、海をかき立てて波を騒がせる方、その名は万軍の主。 エレミヤ 31:35

今朝、私は大変すばらしい朝焼けを目にしました。様々な色が混ざって壮大な風景でした。そして、今朝の朝焼けが素晴らしかったのは、太陽の光が雲に当たり、太陽によって照らされた雲が美しく見えたからでした。太陽が正に昇ろうとしていた(日の出の)際には、空に浮かんでいた雲の輪郭が黄金のように明るく輝き始めました。雲の内側の方は、まるでやかなピンクの色で明るくなっていきました。しかも、それは同じトーンのピンク一色で明るくなっていったのではなく、トーンの違うピンク、さらには、黄金色や紫、そして言葉では表せないような不思議な色で、雲は輝いて見えたのでした。雲の向こう側から太陽が雲を照らし、私たちに大変美しい景色となって映つたのでした。

人生も、この朝焼けと似ていると思います。つまり、人生には「曇りの日」(先が見通せなかったり、落ち込んでしまうような日)もあります。しかし、私が見た朝焼けでは、雲の向こう側には太陽があり、その太陽の光によって雲が照らされて美しい朝焼けとなったのです。それと同様に、人生における「曇りの日」においても、「雲」の向こう側には(光であられる)神様がおられ、たとえ「曇りの日」であってもその日を美しい日として下さるのです。私たちは、雲に視界を覆われ、先が見通せないと心配になります。しかし、そんな時も神様は私たちと共に居て下さっているのです。神様は私たちの人生を美しいものとして下さり、私たちの人生を、愛、希望、平和、喜びで満たしてくださいませ。そして、最終的には、万事を益として下さるのです。

讃美歌 291

祈り 神様、いつも共に居て下さり、私たちを愛して下さりありがとうございます。

イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

ジーン・ガン
テキサス州ネダーランド